

令和二年度 国税庁長官賞

「明るい社会のために」

生駒市立上中学校 三年 寺中 葉

ゴールデンウィーク直前の日曜日、我が家に新しいパソコンがやってきた。新型コロナウイルスによる学校の休業を受けて始まるオンライン授業に備えるために、両親が急遽購入を決めたのだ。その資金となったのは、国民全員に支給された特別定額給付金だ。予定外の買い替えだったが、給付金のおかげで必要な環境が整い、初めての授業形態に対する私の不安もやわらいだ。

今回の給付金を、我が家ではパソコン代の他に、休業中に増えた食費や、新しい生活様式の中で欠かせない、マスクや除菌剤の購入等に充てた。新型コロナウイルスの感染拡大で出費が増え、また、先が見えず気分も落ち込んでいた中、本当に有難いと話していたが、同じように、給付金に金銭的にも精神的にも助けられた家庭は多かったのではないだろうか。他にも多くの助成金制度が次々に発表され、コロナに感染した場合も、医療費は公費負担と聞き、私は日本で暮らすことに心強さと誇らしさを感じた。

そして忘れてはならないのは、これらの費用のほとんどが、税金であるということだ。国民や住民から、広く、いろいろな形で集められたお金を使って、必要なところに必要なタイミングでまとまったお金として投入する。多くの人にとって今年は税金の重要性を改めて実感する年になったに違いない。我が家は四人家族で、一人十万、計四十万円の給付金をもらったが、兄も私もまだ学生で払っているのは消費税くらいだ。生まれたての赤ちゃんにも支給されたというが、逆にたくさん税金を納めていても、単身者なら、受け取れるのは自分の分の十万円のみだ。税金は払った分に合わせて見返りを受け取るものではない。社会をうまく動かしていくために使われる。税金は、みんなのために納め、みんなのために使われるものなのだと思う。私が感じた日本で暮らすことの心強さと誇らしさは、日本にしっかりとした税の制度があり、一人ひとりが税を納めてくれているおかげなのだ。税には、社会を明るくする力があると言ってもよいのではないだろうか。

今、私には何ができるだろう。まずは今感じている感謝の気持ちを忘れないでおこう。私は税金で社会に育ててもらっている。だからどんなことにも真剣に取り組みたい。社会が抱えている問題についてももしっかり学んでいきたい。税金の使われ方についても関心を持ち、選挙権を持てる十八歳になったら、必ず選挙に行こう。そして将来、就職して働くようになったときには、きちんと納税して、明るい社会に貢献したい。